

研究推進について

I 研究主題について

(1) 研究主題

**自ら考え，お互いの考えを高め合う授業の創造
～算数科を中心とした予習学習と，伝え合う活動の充実を通して～**

(2) 主題設定の理由

ア 教育の今日的課題から

予測困難なこれからの社会を生き抜く子供たちには、取り組む課題について自ら考え、多様な価値観を有する他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けていくことが求められている。

こうした教育の今日的課題を踏まえ、本校では、児童が主体的に考え、その考えをしっかりと表現し、仲間と共に互いの考えを高め合うことができるように授業改善に取り組んできた。

一昨年度は研究主題を「自ら考え、お互いの考えを高め合い、深い理解と新たな知を生み出す授業の創造～自ら教科・領域を設定し、他教科へも波及する具体的な研究を通して～」と設定し、指導者それぞれが「自ら考える」「お互いの考えを高め合う」のいずれかに重点を設定し、研究を進めた。実践していくうちに、「自ら考える」「お互いの考えを高め合う」「深い理解と新たな知を生み出す」ことを分けるのではなく、全ての力を同時に高めていくことが大切だということ、それを行うには、指導者が授業そのものをファシリテートしていくことが手立てとなるという結論に至った。また、研究主題と育てたい資質能力との関わりが明確でなく取組があいまいなものとなったため、特に表現力については、課題が残った。

昨年度は2年目の取組として、研究主題を「自ら考え、お互いの考えを高め合う授業の創造～自ら教科・領域を設定し、多様にファシリテートする実践を通して～」とし、「本地小のファシリテート」を作成し、焦点を授業展開場面でのファシリテートに絞って研究を進めていくことにした。単元構想シートを活用して単元や題材のゴールを設定し、そのゴールに向かって一時間目の授業で必要なファシリテートを事前に検討していくことを研修の中に取り入れた。また、研究授業後の研究協議においても、ファシリテートに焦点化して協議を行うことを通して、指導者のファシリテートを意識した授業づくりへの意識が高まった。

しかし、児童の実態を見てみると、自分の考えを表現することや算数科の学力に課題が残った。これまで、児童に課題解決の見通しをもたせた上で自力解決させ、考えたことを伝え合い、理解を深めさせる問題解決型の授業展開を多く行ってきたが、見通しがあいまいなまま個人思考に入ると、本時に到達すべきゴールに全員が到達することができない。そうすると、個人思考で、十分自分の考えをもてないため、自分の考えを表現することも難しくなっていたことが考えられる。

そこで本年度は、研究教科を学力テストで課題の大きかった算数科に絞り、「自ら考え、お互いの考えを高め合う授業の創造～算数科を中心とした予習学習と、伝え合う活動の充実を通して～」と研究主題を改めた。

まず、育てたい資質・能力のうち、「表現力」に焦点を絞り、その表現力の中でも、「自分の考えを最

後まで伝える」ことに重点を置く。

前時の後半に次時の課題を提示し、課題把握や自力解決を予習してくる取組を行う。そうすることで、自分の考えをもっている、あるいはもっていないことを自覚している状態で本時をスタートすることができる。そして、指導者が昨年度まで培ってきたファシリテート力を活用しながら、理解していることを伝え合う場面を充実させることで、課題をより深く考えることができる。さらに、授業前半部分の進行がスムーズになり練習問題や発展課題へ取組ませる時間の確保ができ、自分で家庭学習を進めることができにくい児童への直接支援により課題をやり切らせることができると考える。

また、ルーブリックでの自己評価を取り入れ、予習での到達状況や伝え合う場面で自分の考えの表現について、自分自身の学びを自己認識させることで、学習意欲ひいては学力の向上につなげたい。

2 研究の仮説と研究の柱

(1) 研究の仮説

【仮説 1】課題把握や自力解決を児童一人一人が予習で行った上で授業に臨み、**自らの学びを振り返れば**、児童は自ら考え、**学力を高める**ことができるだろう。

【仮説 2】様々な場面で伝えあう活動の充実を図れば、児童はお互いの考えを高め合うことができるであろう。

(2) 研究の柱

- ・算数科を中心とした予習学習
- ・伝え合う活動の充実
- ・教職員の授業力アップ研修

3 研究の内容

(1) 算数科を中心とした予習学習

①単元の 1 時間目の終わりに 2 時間目の問題を提示し、1 時間目との違いは何かということを児童に問う。

(例) 2 年生「たし算とひき算のひっ算」の場合

- ・1 時間目の問題は $83+46$ のひっ算の問題で 1 の位の繰上りが無い。
- ・2 時間目の問題は $76+58$ のひっ算の問題で 1 の位に繰上りがある。



①「1 時間目にした問題と 2 時間目の問題で違うところはどんなところかな。」

②「次の問題は、1 の位の計算をしたら答えが 10 を超えそうです。」

③「では繰り上がる数字をどこに書いたらいいのか、教科書の内容を参考にして考えてみましょう。」

②2 時間目のめあてを設定し、学習課題を達成するための見通しをもたせる（場合によっては教師が提示する）。

①「⑤1の位がくりあがる筆算の仕方を考えよう。」というめあてを提示し、ノートに書かせる。

「どうしてそのような考えになったのかを友達に説明できるようにしておこう。」

③予習をした段階で、自分の理解度を振り返ってルーブリックに記入する。(○)

※ルーブリック表（「ここまでは分かったよ」レベル）は単元のはじめにノートに張り付けて 2 時間目以降から毎時間振り返って記入をする。

「ここまでは分かったよ」レベル	2 時間目 (予習)	2 時間目 (学習後)	3 時間目 (予習)	3 時間目 (学習後)	
⑤ 友達が納得する説明ができる。					
④ 自分の考えたことを最後まで説明できる。					
③ 問題の意味が分かって自分で解いてみたけど、最後まで説明できない。					
② 問題の意味は分かったけど、問題の解き方はわからない。					
① 問題の意味が全く分からない。					

単元の時間数によって
表は各自付け足しをしていく。

(2) 伝え合う活動の充実

○ルーブリック表を活用し、全員が授業の中で必ず発言する場を設定

・全員に授業の中で必ず1度は発言させる。また、伝え合う場面では、ルーブリック表の①～⑤の順番に意図的指名をして、授業の展開を教師がファシリテートしていく。必要であればペアトークやグループトークを仕組んでもよいが、基本的には、全体で伝え合う場面を設定する。

(3) 教職員の授業力アップ研修

○教育コンサルティングによる研修

○教師も児童も隣接学級の授業を見合う機会の設定

○チームによる指導案の事前検討

○事前研修での模擬授業実施

4 検証の指標と方法

◇学力は向上しているか。

検証の指標		時期	方法
算数科の単元末テスト80点以上を超える児童の割合	80%以上	各学期末	集計ソフト
算数科の CRT が全国比100を超える児童の割合	70%以上	1月末	結果通知表

◇児童は、自ら考え、お互いの考えを高め合っているか。

検証の指標		時期	方法
「授業の中で、自分の考えをもっている。」と回答する児童の割合	90%以上	9月末 1月末	児童アンケート 教職員の見取り
「自分の考えを書いたり話したりして表現することができる。」と回答する児童の割合			
「授業の中で、友だちと意見を出し合っているうちに、考えが深まったり、新しいことに気付いたりする。」と回答する児童の割合			
ルーブリック表で「④自分の考えたことを最後まで説明できる。」に到達する児童の割合	70%以上		ルーブリック表

(3) 研究推進計画

月	日	研修内容
4	12	育成を目指す資質・能力・今年度の研究について
	12	全単元の見通し、授業研の学年及び単元決め(ブロック研修)
5	10	家庭学習について
	24	理論研修及び目標設定
6	7	事前研【模擬授業】(3年授業研Ⅰ)
7	12	授業研Ⅰ(3年)
夏休み		1 学期の振り返り、2学期以降の取組の方向性
		単元構想シート作成【授業研Ⅱ～Ⅳ】(ブロック研修)
		事前研【模擬授業】(授業研Ⅱ)
9	13	授業研Ⅱ(5年)
	20	事前研【模擬授業】(すみれ学級授業研Ⅲ)
10		ミニ授業研週間(4日1年生・18日4年生)
	25	ミニ授業研の振り返り(ブロック研修)
11	1	授業研Ⅲ(すみれ学級)
11	29	事前研【模擬授業】(2年生授業研Ⅳ)
1	24	授業研Ⅳ(2年)
2	7	育てたい資質・能力の振り返り
	14	今年度の研究についての振り返り・来年度の方向性